

△人物▽  
ひさだそうけい

久田宗溪 寛保二年（一七四二）～天明五年（一七八五）

こうこうさい

久田家六代。表千家の縁戚の茶家です。了々斎および七代皓々斎の父。

そったくさい

啐啄齋 延享元年（一七四四）～文化五年（一八〇八）

じょしんさい

表千家八代家元。宝暦元年（一七五一）父如心斎の跡を継ぐ。幼少の頃、父の弟子で新宮出身の川上不白から援助を受けた。紀州藩には宗将、重倫、治貞、治宝の四代に渡って仕え、還暦を機に隠居し、宗旦を名乗った。

くさまなおかた

草間直方 宝暦三年（一七五三）～天保二年（一八三一）

京都に生れ、大坂の両替商鴻池に勤めていた。若年の頃より茶湯に親しみ、名物茶器や茶会記等を集めた『茶器名物図彙』を執筆した。

りょうりょうおかた

了々斎 安永四年（一七七五）～文政八年（一八二五）

ひさだそうけい

表千家九代家元。久田宗溪の子。実父の没後、千家へ養子に入った。文化元年（一八〇四）啐啄齋の隠居に伴い、家元となる。享和元年（一八〇一）から紀州藩に召し抱えられ、のちに治宝に皆伝を授けた。了々斎没後、十代家元となる吸江齋は治宝から返伝授を受けている。

△参考▽系図 表千家同門会 『同門』 平成八年九月号より転載

ここには了々斎の妹が記されていませんが、親類書には現れない早逝した子供達の存在が確認できます。